

健康科学部 看護学科カリキュラムマップ30年度入学生用

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分	ディプロマポリシーの項目番号										
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで										
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
看護学科 ディプロマポリシー	1. 知識・理解	①看護の対象である人間が身体的、精神的、社会的に統合された存在であることを理解し、各ライフサイクルの発達の特徴や発達課題を理解できる。 ②健康があらゆる健康レベルの連続性にあることを踏まえ、健康に影響を耐える環境や要因について説明できる。 ③あらゆる健康レベルにある人々に対する看護の役割・機能について理解する。												
	2. 汎用的能力	④対象者との援助関係を中心としたコミュニケーションを成立、維持させる能力を身につけている。 ⑤看護実践に必要な情報処理技術とリテラシーを身につけている。 ⑥対象の健康上の問題をクリティカルに分析、判断できる論理的思考力、エビデンスに基づいた看護実践力を主軸とした問題解決能力を習得している。 ⑦チーム医療や地域連携に必要なコーディネートおよびマネジメント力を身につけている。												
	3. 態度・志向性	⑧対象者の尊厳を守り、尊重した態度で接することができる。 ⑨看護師として高度化、専門化する将来像を見据え自らの課題を設定し、それに向けた学習の取り組みを主体的に行うことができる。												
	4. 統合的な学習経験と創造的思考力:	⑩看護職として健康問題に関する国内外の動向に関心を持ち、医療や社会の発展に貢献できる。												
仏教看護論 I	仏教看護論の意味とその本質、位置づけ、主要概念、方法論について学ぶ	1. 仏教看護の概念を理解している	30	◎		○								
2. 人間の「生老病死」の局面を看護上の概念として理解している		50	◎	○										
3. 仏教看護の概念にもとづいた看護サービスを理解している		20	○		◎									
生化学	人体の構造や機能を細胞レベルにおいて、生命現象を化学的に学ぶ	1. 糖質、脂質、タンパク質およびアミノ酸その分類、機能など化学的性状を理解している	35		◎									
		2. 生体内での代謝機構と相互転換およびエネルギー生成と利用を理解している	35		◎									
		3. 核酸の性質と代謝、遺伝子の発現と遺伝子操作、ホルモン作用機序等を理解している	30		◎									
看護と栄養	生物体・生活者としての人間理解を踏まえ、科学的な人間の生命維持過程に必要な栄養とその代謝を学ぶ	1. 人間の生命を維持する食品成分の栄養素が理解できている	40		◎									
		2. 栄養素の消化・吸収のしくみと健康の関係について理解している	40		◎									
		3. 人間の食行動の特性と健康教育について理解している	20		◎									
生物の基礎	生物や生物現象について、基礎的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を生物学的に探究する	1. 細胞、生殖と発生及び遺伝について理解している	35		◎									
		2. 環境と生物の反応の間に見られる仕組みや内部環境の維持を理解している	35		◎									
		3. ヒトの成長や器官の分化の調節について理解している	30		◎									
化学の基礎	化学的な事象・現象について、基礎的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を探究する	1. 化学の役割や物質の扱い方について理解している	40		◎									
		2. 有機化合物の性質や変化を理解し、物質に関する基本的な概念や法則を理解している	40		◎									
		3. 物質に関する基本的な概念や法則をを日常生活と関連付けて考察できることが出来る	20		◎									

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分	ディプロマポリシーの項目番号												
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで												
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩			
人体の構造と生理機能	人体の機能と構造について理解を深め、疾病によって人体が受ける機能・構造の変化について学習する	1. 解剖学に準拠して人体の諸器官の「構造」について理解している	40	◎												
		2. 生理学に準拠して人体の諸器官「機能」について理解している	40	◎												
		3. 外部環境に対する反応としての生命維持、遺伝・生殖・発生、老化の仕組み等が理解できる	20	◎												
病気の成りたち	病気になった原因を探ったり、病気になった患者の身体に生じている変化かどのようなものであるかを学ぶ	1. 人の病気の診断や治療および予防のメカニズムを理解できている	40		◎											
		2. 先天異常と遺伝子異常・代謝障害・循環障害・感染と炎症・腫瘍・変性・老化の6病変カテゴリーを理解している	40		◎											
		3. それぞれの臓器・組織における疾病カテゴリーについて理解している	20		◎											
からだの防御の仕組み	からだの感染に対する防御機構についての基礎知識と診断・治療について学ぶ	1. 宿主－病原体関係に関する細菌・ウイルス・真菌などに関する知識、侵入・増殖の防御機構を理解している	40		◎											
		2. 免疫の機能と感染防御・移植・周産期医療の関係を理解している	40		◎											
		3. 病原体・感染・免疫と生体防御との関係、感染症の診断と治療について理解している	20		◎											
看護コミュニケーション	看護におけるコミュニケーションについて、概念や主要な理論、基本的技法、看護実践上に必要な具体的な活用について学ぶ	1. コミュニケーションの概念と主要な理論を理解している	30			○	◎									
		2. 基本的コミュニケーションの技法と看護における活用法を理解している	40			○	◎									
		3. グループダイナミックスの基礎知識と看護における応用を理解できる	30			○	◎									
メンタルアセスメント	多軸的な側面から精神の健康をアセスメントできる能力を養う	1. 精神保健の概念と重要な理論を理解している	30	○	◎											
		2. 精神障害の発達課題と生活上の支援を理解している	40	○	◎											
		3. 精神障害に関する治療と予防を精神保健上の視点で理解している	30	○	◎											
薬理学	薬物の人体への生理的影響を看護の役割を視座に学ぶ	1. 薬物の体内の動態・代謝と薬物の投与経路、作用・副作用を理解している	35		◎											
		2. 薬物の各薬理作用別に薬物の機能などを理解している	35		◎											
		3. 薬剤それぞれの作用機序や臨床応用を理解している	30		◎											
診断と治療 I	主に内科系疾患を中心に臓器ごとの診断法と治療およびその予後に関して、適切な看護を提供する能力を養う	1. 内科系疾患の診断治療が看護上の視点で理解している	40		◎	○										
		2. 診断と治療に関する看護サービスを理解している	40		◎	○										
		3. 患者の病態と診断・治療を統合して看護サービスの展開を理解している	20		◎	○										
診断と治療 II	主に外科系疾患を中心に臓器ごとの診断法と治療およびその予後に関して、適切な看護を提供する能力を養う	1. 外科系疾患の診断治療が看護上の視点で理解している	40		◎	○										
		2. 診断と治療に関する看護サービスを理解している	40		◎	○										
		3. 患者の病態と診断・治療を統合して看護サービスの展開を理解している	20		◎	○										

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分	ディプロマポリシーの項目番号													
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで													
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩				
診断と治療Ⅲ	老年疾患、精神疾患、小児疾患について病態像や最新の治療などを学習し、適切な看護アセスメントと援助の視点、方法を習得する	1. 老年内科疾患・呼吸器循環器疾患・脳卒中・認知症の病態や看護上の視点について理解している	40		◎	○											
		2. 小児・新生児・周産期疾患、発達・人格障害、精神疾患の病態や看護上の視点について理解している	40		◎	○											
		3. 上記を含めた老年・小児・精神疾患の診断・治療に関する看護アセスメントと援助の方法を理解している	20		◎					○							
基礎ゼミ	看護職を目指す大学教育の導入として、大学で学ぶ意味の理解、自ら考え学ぶ学習態度、学士力修得のための基礎的な能力を習得する	1. 大学生活をイメージでき、看護専門職者になるための主体的な学習法が理解できる	40						○				◎				
		2. 生活者としての看護の対象の理解ができる	20	◎			○										
		3. 物事を根拠に基づき批判的に分析、判断し、自身の主張を論理的に構成する能力を習得できる	40						○	◎							
生命倫理	人の生命の尊厳、基本的権利、尊厳死などについて学び、看護職としての基本的な倫理原則、倫理理論を学ぶ	1. 人としての命の尊厳と基本的権利を看護的視点から理解できる	30			○							◎				
		2. 看護職として倫理的原則、生命・医療倫理を理解している	40			○							◎				
		3. 日常生活の場の問題解決を倫理的判断にもとづいて考察できる	30						○	◎							
公衆衛生学	公衆衛生学の歴史と健康施策と人々の暮らしにおける健康維持の役割の関係および健康指標などを学ぶ	1. 公衆衛生の歴史と人々の暮らしにおける健康維持の役割を理解している	40		◎												
		2. 公衆衛生に基づいた健康施策とその役割が理解できる	40		◎												
		3. 地域の特性のアセスメントの基本的能力を習得している	20		◎												
ターミナルケア	ターミナル期におけるスピリチュアルな側面に焦点を当て、ホスピスケア、緩和ケア、を理解し、仏教に基づくビハーラケアを学ぶ	1. ターミナル期にある患者のホスピスケアや緩和ケアを理解している	30	○		◎											
		2. ターミナル期にある患者に仏教が提唱しているビハーラケアについて理解している	30	○		◎											
		3. 仏教に基づいた温もりのある看護に必要なコミュニケーションスキルを理解している	40					◎					○				
社会保障論	社会保障制度の理念と歴史その構造の概要を医療保険と介護保険を中心に学ぶ	1. 社会保障制度の理念と歴史、社会保障の財源と費用を理解している	40		◎											○	
		2. 社会保障制度における社会保障と生活保護制度の連関を理解している	40		◎												○
		3. 諸制度の特性および看護の関わりを理解している	20				◎			○							
家族看護学	家族の構造と機能を理解し、家族周期、家族発達安堵の理論から家族関係の課題やその支援について学ぶ	1. 家族看護学の概念について理解している	30	◎	○												
		2. 家族関係の変容や役割に関する課題とその支援について理解している	30	◎													
		3. 家族の健康問題にかかわる看護支援を理解している	40		○	◎											

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分	ディプロマポリシーの項目番号											
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで											
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
看護政策学	看護職の活動の場が拡大し、活動対象者が多様化している中で、質の高い看護活動を提供するための環境づくりとしての看護政策を学習する	1. 看護政策の歴史的発展過程と無看護職の抱える課題を理解し、課題解決について施行する能力を養う	40			○									◎
		2. 我が国における看護制度、看護政策、看護教育制度、諸外国の看護政策について学習し、看護職を取り巻く環境について理解する	60			○									
看護倫理Ⅰ	医療における看護実践の基盤である倫理観、倫理的判断や問題の認識、倫理的原則に基づく対応の基本について学習し、倫理に基づいた看護実践のための基礎的能力を養う	1. 看護実践における倫理観、倫理的判断、倫理的原則に基づく対応の基本が理解できる	50			○			◎						
		2. 看護倫理に裏打ちされた看護を実践するための基礎的能力が理解できる	50			◎						○			
看護倫理Ⅱ	看護倫理Ⅰで学び理解した倫理的原則に基づく判断、態度や行動について、全ての臨地実習体験後にリフレクティブな学習を行い、倫理に基づいた看護実践能力を習得する	1. 臨地実習で体験し自ら思考し行動したことを振り返り、看護倫理の在り方が考察できる	40									○	◎		
		2. 実習体験とクラスメンバーとの学びの共有をとおして、倫理に基づいた看護実践能力を高めることができる	40							○	◎				
看護管理論	看護の対象に対して、安全で質の高いチーム医療や継続的ケアを提供するために、対象を取り巻くあらゆる資源(人的、物的、財的)を効果的、効率的に利用、活用するための組織や体制について学び、看護管理者の役割について理解する	1. マネジメント機能とその方法を学び理解している	30								◎				○
		2. 看護専門職の機能や役割が発揮できるための看護管理者の役割を理解している	30								◎				○
		3. 保健・医療・福祉の地域連携体制と継続ケアの在り方、その中での看護の役割について理解している	40			○						◎			
専門職の連携(基礎)	医療福祉機関をはじめとした地域の生活者の支援に関わる職種を理解する	1. 取得を目指している資格は、他職種と連携し地域における包括的なヘルスケアシステムを担い、人の命を救う専門職としての資格であることを理解する	30			◎						○			
		2. 地域における包括的なヘルスケアシステムを担う他の専門職を理解する	40								◎				
		3. 他職種の視点を通して、将来についてのより明確な自己像を描けるようになる	40									◎			
専門職の連携(応用)	他職種との連携協働の実際を学習する専門職連携に関する発展的な科目であり、実践力のある専門職として就職するための総まとめ的な学習を行う	1. 他職種間での専門的かつ高次のコミュニケーションをはかれるようになる	30				○					◎			
		2. 実例を取り上げることで、より具体的で実践的な援助方法を理解する	40			○						◎			
		3. 専門職としての自己意識を高め、資格取得に向けての意欲向上を目指す	30											◎	○
包括的ヘルスケア論	少子高齢化進展のなかで、乳幼児期から高齢期の健康に関する理解を深め、健康を維持、増進するための政策および地域・在宅生活者に対する保健・医療・福祉施策の動向を学ぶ	1. 進展する少子高齢化における重要な課題が理解できている	35											◎	○
		2. 人々の健康の維持、増進のための政策について理解している	35											○	◎
		3. 地域に対する保健・医療・福祉施策の動向を理解している	30											○	◎
看護学原論	専門的なヘルスサービスとしての看護について、その領域と境界および看護実践の特徴を学ぶ	1. 看護の目標では看護の意味するもの、諸看護理論の特徴を理解している	40	◎		○									
		2. 看護の対象では健康と関連づけながら人間について理解している	40		◎	○									
		3. 看護の機能と役割では実践活動での看護過程・技術を理解している	30			◎				○					

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分	ディプロマポリシーの項目番号										
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで										
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
日常生活を支える看護技術Ⅰ	看護技術の習得および、技術修得過程の構造の意識化をはかり、技術修得能力を学ぶ	1. 看護実践の技術を抽象化してとり出した共通基本技術を理解している	40			◎			○					
		2. 日常生活行動を維持・発展させるために必要な看護技術を理解している	40						○					
		3. 看護技術修得過程の構造の意識化・技術修得能力を理解している	20			◎								
日常生活を支える看護技術Ⅱ	看護技術および共通基本技術の習得、技術修得過程の構造の意識化をはかり、技術修得能力を学ぶ	1. 自分自身が患者・看護師となり、共通する共通基本技術を習得している	40			◎			○					
		2. 日常生活行動を維持・発展させるために必要な看護技術の修得している	40			◎			○					
		3. 看護場面の自己・他者評価を通して自己評価能力を向上している	20										◎	
治療・診断過程に伴う看護技術	対象者に行われる病気の診断・治療過程に伴う看護技術について理解し、習得する	1. 健康障害の経過における対象者の状況を理解している	40			◎								
		2. 対象者の主たる治療法と看護援助技術について理解している	40		○									
		3. 最新の医療内容(検査・観察・治療など)とその安全な方法について理解している	20		○	◎								
フィジカルアセスメント概論	看護を科学的・理論的に実践する方法としてのフィジカルアセスメントの概念や対象者となる人の全体像を知る意義を理解する。同時に、健康問題を持つ人々を理解し、具体的な看護援助を見出すために必要なアセスメントの知識と技術を学ぶ。	1. 看護におけるフィジカルアセスメントの意味と目的と医療におけるフィジカルアセスメントの違いを理解することができる。	30		○								◎	
		2. 解剖学など専門知識をフィジカルアセスメントに生かし方が分かる	30						◎					
		3. 患者を人間という統合体としてアセスメントする必要性を理解することができる。	40		○					◎				
看護過程論	看護援助の方法論としての看護過程について、歴史、看護概念や看護理論との関係、構造と内容について理解し系統的、論理的に展開する方法を学ぶ	1. 看護援助の考え方と原則、枠組みとなる概念や理論と看護過程の関係が説明できる	20					○	◎					
		2. 問題解決過程としての構造、各段階の要点など概要を理解できる	30		○				◎					
		3. クリティカルシンキングを活用したアセスメント、診断、評価を理解している	50											
看護過程論演習	模擬事例を活用し看護過程を展開することにより、必要な思考力、判断力、評価力、問題解決能力を養い、対象の健康上のニーズの把握から充足に至る看護援助を理解し、その方法を習得する	1. 事例に対する看護過程の展開方法を正確に理解している	30					○	◎					
		2. 看護過程の展開を通して、一連の系統的なプロセスが記述できる	30					○						
		3. 健康障害の理解、対象の療養上のニーズの明確化と解決のための看護の基本的方法が理解できている	40		○					◎				

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分	ディプロマポリシーの項目番号												
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで												
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩			
フィジカルアセスメント演習	看護におけるフィジカルアセスメントの意味と目的を理解し、解剖学など専門知識に根拠付けられた診査技術を習得する	1. ヘルスアセスメントにおけるフィジカルアセスメントの位置と目的を理解している	20	○	◎											
		2. 問診、触診、聴診などフィジカルアセスメントの基本的診査技術ができる	50			◎			◎							
		3. 得られた情報の適切な判断、評価、看護援助への活用ができる	30			◎			◎							
母性看護学概論	ヒトの性と生殖の意義について学び、女性のライフステージにおける発達課題と健康について学ぶ	1. 女性とその家族の健康と発達課題について理解している	40	◎		○										
		2. 女性とその家族の健康と権利について理解している	20		○	◎										
		3. 周産期における女性とその家族の健康とその問題について理解している	40		◎	○										
小児看護学概論	小児期の成長・発達の理解及び小児保健の動向を学ぶ。小児医療における子どもの権利について学ぶ	1. 子どもの成長・発達について理解している	40	◎		○										
		2. 小児医療と子どもの権利の関連を理解している	20		◎							○				
		3. 現代社会に生きる子どもと家族の健康問題を理解している	40		◎								○			
成人看護学概論	成人期の健康問題への理解を深め、病の軌跡やストレス理論などから看護支援の在り方を学ぶ	1. 成人期の健康問題の特性を理解している	50	◎		○										
		2. 成人看護学で必要な看護理論を理解している	20	◎		○										
		3. 成人期の健康問題やストレスへの看護的支援が理解できている	30		◎	○										
老年看護学概論	高齢者を身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな側面から全人的に捉え、健康問題に対する支援について学ぶ	1. 高齢者を身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな側面から全人的に捉えることができる	30	◎	○											
		2. 高齢者を取り巻く倫理的課題について理解できる	30						○		◎					
		3. 高齢者の健康問題について理解し、その予防や治療・看護について概観できる	40		○	◎										
精神看護学概論	精神看護学の知識と援助基本から実践に至る能力を習得する	1. 身体的・精神的アセスメントができている	30	◎	○											
		2. 精神看護学理論や援助法を理解している	40		○	◎										
		3. 精神を病む人の自立への援助を理解している	30	○		◎										
母性看護学演習 I	母性看護の基本的知識を基に、周産期における女性およびその家族の支援における看護技術を学ぶ	1. 周産期の女性および新生児のフィジカルアセスメントができる	40	◎	○											
		2. 周産期における女性とその家族の援助法を理解している	30			○			◎							
		3. 女性のライフステージに関する健康とその支援を理解している	30			○			◎							
母性看護学演習 II	周産期の女性および新生児のフィジカルアセスメントを実施し、母子とその家族のウェルネス獲得に向けた看護援助を学ぶ	1. 周産期に必要な看護技術を、科学的根拠をもって安全に実施できる	40				○		◎							
		2. 周産期に必要な健康管理の方法を理解している	30						◎	○						
		3. 周産期・新生児期に起こる健康逸脱について理解している	30		◎	○										

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分	ディプロマポリシーの項目番号																	
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで																	
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩								
小児看護学演習Ⅰ	子どもの権利や発達の視点を踏まえた入院環境や看護援助の方法、健康障害のある子どもと家族への看護を展開する基礎的知識を学ぶ	1. 子どもの入院・病気が子どもとその家族に及ぼす影響を理解している	40		◎	○															
		2. 小児の健康レベルに応じたアセスメント技術を理解している	30			○				◎											
		3. 小児の基本的日常生活動作の援助技術、臨床的な基本技術を理解している	30			○				◎											
小児看護学演習Ⅱ	疾患をもつ子どもの事例展開を通して、小児看護における知識を統合する力を学ぶ	1. 身体や発達障がい、災害等様々な状況における子どもと家族に対する看護の視点を理解している	20		◎	○															
		2. 子どもに特有な看護技術を学び、発達の視野で小児看護の展開ができる	30	○							◎										
		3. 事例展開を通して、小児看護における知識を統合する力が高まる	50			○					◎										
成人看護学演習Ⅰ	成人期の慢性期終末期にある対象者の看護実践の方法を学ぶ	1. 慢性疾患患者の看護過程を理解している	30						○	◎											
		2. 患者の症状管理と生活援助を理解している	50					◎		○											
		3. 患者の教育方法について理解している	20		◎	○															
成人看護学演習Ⅱ	周手術期の患者の看護、クリティカルケアを必要とする患者の看護、リハビリテーション看護について学ぶ	1. 急性期にある対象のニーズを把握している	20	◎		○															
		2. 対象の生命力を引き出し回復を促進する実践的な看護援助の方法を習得している	40			○					◎										
		3. 周手術期の患者の看護、クリティカルケアを必要とする患者の看護、リハビリテーション看護について理解している	40			◎					○										
老年看護学演習Ⅰ	高齢期特有の疾患や生活機能障害について学び、高齢者の個別性とQOLに配慮し、科学的根拠に基づいた看護支援を理解する	1. 高齢期特有の疾患や生活機能障害について学ぶ	40		○						◎										
		2. 老年期の看護過程の特徴やアセスメントツールの目的・特徴が理解できる	20			◎					○										
		3. 老年期特有の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルなニーズに対応した、科学的根拠に基づく看護支援について学ぶ	40	○								◎									
老年看護学演習Ⅱ	老年看護に必要な技術を学び、実践能力および看護過程の方法を修得する	1. 各種障害や要介護状態にある高齢者への看護実践について理解できる	30			◎			○												
		2. 老年看護の実践に必要な援助技術を取得する	30			◎	○														
		3. 事例展開を通して、高齢者に対する看護過程の方法を修得する	40							○	◎										
精神看護学援助論	精神機能に障がいを持つ人に対する基本的な援助方法および精神科リハビリテーション活動、精神医療保健福祉の連携と支援法を学ぶ	1. 精神看護学の基礎的知識や技術を理解している	40		○	◎															
		2. 精神機能に障がいを持つ人に対する基本的な援助方法を理解している	30			◎	○														
		3. 精神科リハビリテーション活動、精神医療保健福祉の連携と支援の方法を理解している	30			◎						○									
精神看護学演習	様々な状況にある対象者の精神状態の把握とアプローチ法に関する基礎的知識を学び、身体、精神面の統合を学ぶ	1. 身体的・心理的アセスメント能力を習得している	50	○	◎																
		2. 精神機能に障がいを持つ人に対する看護過程の展開方法を理解している	20			○					◎										
		3. 心の不健康・病気するとき、看護職として支援方法を理解している	30			◎					○										

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分	ディプロマポリシーの項目番号									
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで									
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
在宅看護学概論	療養者とその家族が、人としての尊厳、健康で安全に生きるという「自分の家での生活の基本」を実現するための看護的支援を学ぶ	1. 人間の尊厳を守ることを理解している	30				○				◎		
		2. 療養者とその家族の健康と安全を理解している	30	◎	○								
		3. 連携と在宅支援について理解している	40			○				◎			
在宅看護学演習	在宅療養者と家族への看護活動を支える援助技術、医療的ケアを必要とする人の看護の実際を学ぶ。事例の個別性に応じた看護過程の展開を通して在宅看護に必要な看護の役割について学ぶ	1. 在宅において医療管理を必要とする人の看護の実際について理解している	30		○	◎							
		2. 事例を通し状態に応じたアセスメントと看護の実際について理解できる	40		○				◎				
		3. 訪問看護における看護過程の展開方法と看護の役割を理解している	30						◎	○			
公衆衛生看護学概論	地域を基盤として展開する公衆衛生看護の特性を学ぶ	1. 公衆衛生看護学の理念や歴史を理解している	10	○		◎							
		2. 公衆衛生看護活動の展開の方法を理解している	60	○		◎							
		3. ヘルスケアシステムとその役割を理解している	30	○		◎							
疫学	疫学の方法と基本的な考え方を学び、公衆衛生看護学における特定地域の疾患構造などのアセスメントおよび保健活動などの根拠に必要な知識を習得する	1. 疫学の方法と基本的な考え方を理解している	30		◎								
		2. 公衆衛生看護学における特定地域の疾患構造などのアセスメントが自立して学習できる	40						◎			○	
		3. 保健活動などの根拠に必要な知識を習得している	30			◎						○	

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分	ディプロマポリシーの項目番号										
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで										
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
保健福祉行政論	人々の暮らしに関わる保健・医療・福祉行政・制度の変遷を学び、現代社会の課題と今後の展望について考察する。また、地域の保健・医療・福祉システムにおける計画・実施・評価の概要、行政活動の実際、諸外国における健康施策と保健・福祉の在り方について学ぶ	1. 地域の人々の暮らしにおける保健・医療・福祉のケアシステムにおいて計画・実施・評価に関する概要を理解している	30			○					◎			
		2. 人々の暮らしの場で活かされる行政活動の実際を理解するとともに、諸外国における健康施策と保健・福祉の在り方について理解している	40			○								◎
		3. 母子保健・老人保健・精神保健などの保健行政の変遷と今後の動向を考え、地域の人々の暮らしに関わる総合ケア活動について理解する	40			○								
保健統計学	保健医療従事者や研究者は個人の健康の維持・増進や公衆衛生向上のために様々な保健事業や疫学研究を実施する。その際必要な集団と個人の健康状態に関する情報を用いた分析の考え方と方法を学ぶ	既往歴、家族歴、検診結果など個人の健康状態に関する情報を用いた分析の考え方と方法を理解している	20					○	◎					
		2. 集団及び個人のヘルスアセスメント等看護学の統合的な視点における看護活動としての基礎知識を理解している	30					○	◎					
		3. 保健医療従事者として基礎的な統計分析手法を理解している	50					◎	○					
学校保健	学校教育として行われる学校保健の目的や内容、児童生徒の健康問題などをふまえて、学校における健康づくりの意義、さらに、学校内外の関係者・関係機関が連携した健康づくりの実際を学ぶ	1. 学校保健の目的、内容、方法について理解している	30	○		◎								
		2. 学校保健における保健事業の立案を理解している	20	○		◎								
		3. 学校保健教育の展開方法や学校保健管理の実際を理解している	50	○		◎								
産業保健	歴史的に取り組まれてきた産業保健活動から労働と健康の関係、職業に起因する疾病などについて学ぶ	1. あらゆる職業に従事する人々の労働衛生対策や根拠となる労働基準法、労働安全衛生法などの法制度を理解している	40	○		◎								
		2. 産業保健師の役割について理解できる	30			◎			○					
		3. 労働形態の多様化、情報産業の発展に伴う健康被害や化学物質等有害物質対策、生活習慣病対策、メンタルヘルス対策など産業保健の現代的課題について考察できる	30		◎					○				
健康教育論	健康教育の基本知識を理解し、健康教育の目的・方法について、対象者の個人・集団の特性を把握し、健康な生活への行動の支援、保健師が行う地区活動としての規格・実施・評価の過程を学ぶ	1. 看護職が行う健康教育の目的・意義が理解できる	10	○		◎								
		2. グループの特性、及びグループ活動の意義と支援者の役割が理解できる	30						◎	○				
		3. 保健師が行う健康教育の企画・実施・評価の過程とその視点が理解できる	60					○	◎					
基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学実習では、健康問題を解決するための看護活動を体験的に学ぶ	1. 看護の目的・対象の理解・看護が機能する場を体験的に理解している	30	○		◎								
		2. 医療を受けている対象への関心と理解を深めている	40				○					◎		
		3. 援助の場の体験を通して、看護の方法や看護師の役割が理解できる	40			◎							○	
基礎看護学実習Ⅱ	患者の健康状態の好転をめざし、看護実践能力と態度の習得をめざし学習する	1. 看護の対象の健康レベルをアセスメントできる	40		◎				○					
		2. 看護対象の看護支援の方法を立案し実施できる	40		○				◎					
		3. 看護対象の看護支援について評価できる	20			○			◎					
母性看護学実習	周産期にある女性と胎児・新生児、家族との関わりを通して、生殖機能を学習し、親になる過程に必要な健康教育と看護技術を習得する。リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念にもとづき、看護ケアの必要性と個別的ケアについて総合的な把握ができる	1. 女性のライフサイクルにおける健康について理解できる	30	◎					○					
		2. 周産期における女性の健康と家族発達について理解できる	30		◎			○						
		3. 周産期・新生児期を通じた健康問題とその支援について理解できる	40						◎	○				

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分	ディプロマポリシーの項目番号											
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで											
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
小児看護学実習	子どもを発達主体として尊重しその子らしく生活できるように、また各健康レベルに必要な支援のための看護実践能力を養う	1. 子どもの成長発達を理解し、観察、分析、評価できる。子どもの成長発達に応じた、子どもの健康問題の解決法について考えられる	30	○						◎					
		2. 子どもと家族の健康問題(ニーズ)を認識し、分析、実践、評価できる。必要な社会資源を理解するとともに、保健医療メンバーとしての役割を理解している	40		○					◎					
		3. 子どもや家族との対人関係における自己の気質を考え、今後の深めるべき自己の課題を明らかにすることができる	30				○						◎		
成人看護学実習 I	慢性期および終末期にある患者に対する看護実践の方法を学習することを目的とする。既習の知識・技術を基盤として、成人期にある対象を統合的に理解し、健康状況に応じた看護が対象及び家族に実践できる能力を養う	1. 慢性疾患をもち生涯コントロールを要する患者の健康問題を捉え、セルフケア能力を高めるための援助を実践する	40		○					◎					
		2. 慢性期にある臓器別疾患の患者の特性を理解し、看護実践の技法を事例による看護の展開を通して習得できる	30	○						◎					
		3. ターミナル期における看護実践の技法を事例による看護の展開を通して習得できる	30		○					◎					
成人看護学実習 II	手術による侵襲あるいは急激な病気の発症にみまわれた対象の特性を理解し、苦痛を緩和・回復を促進するための基本的知識・技術を習得する	1. 手術侵襲や急激な病気の発症にみまわれた生体は、その侵襲の程度や生体反応のバランスによって回復過程が左右されることを理解している	30	○						◎					
		2. その経過は治療やケアによって大きく影響を受けることをふまえ、急性期にある対象のニーズを把握する技術を習得している	30		○					◎					
		3. 対象の生命力を引き出し、回復を促進する実践的な看護援助の方法を習得している	40	○						◎					
老年看護学実習 I	介護保険施設での高齢者の日常生活への援助やコミュニケーションをとることで、高齢者のQOLの保障や生活の場を整える看護の視点を養う	1. 高齢者との関わり方を理解する	40				○					◎			
		2. 介護保険施設の特色や役割を理解し、施設における看護実践について学べる	30			○					◎				
		3. 老年看護における継続的学習能力を修得する	30							○			◎		
老年看護学実習 II	高齢者の発達課題、加齢現象、健康障害、生活機能障害、および心理的・社会的・スピリチュアル面の変化を統合して把握することで、健康上の問題を判断し、残存機能を活用した援助ができる能力を養う	1. 高齢者との援助的人間関係の構築について学ぶ	25				◎					○			
		2. 高齢者のQOLと個性性に配慮した看護過程を理解し実践する	50							◎			○		
		3. 老年看護の学習者として、また未来の実践者としての姿勢を確立する	25										◎	○	

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分	ディプロマポリシーの項目番号									
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで									
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
精神看護学実習	精神疾患・精神障がいを持つ人の悩み、苦しみを理解し、そこでの看護活動を通して、精神疾患・精神障がいの治療と看護、看護上の問題解決のために必要な基礎的知識や援助技術およびコミュニケーション方法を習得する	1. 精神医療・保健・福祉における治療的環境および治療的関わりを理解している	30				◎				○		
		2. 心理的・社会的発達課題や生活を含めた対象者の全体像から必要な問題解決の援助方法を習得できる	40	○					◎				
		3. 対象者が社会生活を取り戻すために利用できる精神医療・保健・福祉に関する施策や社会資源について対象者と共に考えることができる	30		○					◎			
在宅看護学実習	生活の場で提供される在宅看護および在宅ケアの実際を学び、対象者および実践の場である在宅の特性を理解し、在宅看護活動を実践する基礎的能力を養う	1. 療養者と家族の健康問題及び生活上の諸問題を考察し、訪問看護過程の展開を習得する	40		○				◎				
		2. 社会資源の活用の実際について理解し、関係機関、他職種と協働する中で看護の役割について理解する	30				◎					○	
		3. 訪問看護ステーションの役割と機能、運営の実際について習得する	30				◎				○		
統合看護学実習	全実習を終えた後、看護の役割と機能を改めて確認し、看護職としての実践に向けた準備を行うために、病院、施設等において、看護管理、危機管理、倫理的態度、多職種との協働等について個別的看護実践を通し、その意義と重要性を学ぶ	1. 看護の役割と機能を確認し看護学の全領域を総合的に把握できる	40				◎					○	
		2. 個別的看護実践を通し多職種との協働、マネジメント等について、その意義と重要性を認識できる	40						○	◎			
		3. 看護管理、看護倫理、災害看護を包摂した看護実践が理解できる	20				◎						○

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分	ディプロマポリシーの項目番号												
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで												
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩			
研究方法論	看護研究の意義と目的、進め方、分析方法など研究の概要と基本的な手法を学び、卒業研究、論文作成が円滑に遂行できるように、研究テーマの設定、研究方法、研究に関する倫理を理解し、研究遂行を習得する	1. 看護研究の意義と目的、進め方、分析方法など研究の概要を理解している	50			◎									○	
		2. 研究テーマの設定、文献レビュー、倫理的配慮、計画書の作成、分析、考察の方法を理解している	30	◎								○				
		3. 計画に沿ってデータ収集、分析、考察、論文作成が遂行できる	20					◎						○		
卒論ゼミ	看護学に関する新しい知見を見出す研究の意義や倫理的課題、看護実践と看護理論との関連について学び、研究活動を実践する。その結果を考察し論文にまとめ、報告するプロセスを通して研究の意義を理解する	1. 看護学を構成する理論および研究における倫理が理解できる	20			○				◎						
		2. 研究に関する手法が理解でき、論文作成ができる	60						◎				○			
		3. 看護学の知見を実際の看護実践に関連付けることができる	20						◎						○	
仏教看護論Ⅱ	仏教看護の可能性、仏教看護実践の基本姿勢、仏教看護における人間関係、仏教看護と看護過程、人間の「生」と仏教看護の実践、人間の「老」と仏教看護の実践、人間の「病」と仏教看護の実践、人間の「死」と仏教看護の実践などについて学習する	1. 医療・看護の場面における仏教看護の理論が理解できる	30	○		◎										
		2. 仏教看護の実践可能性、看護実践が理解できる	40			◎										
		3. 「生老病死」の理念を仏教看護を通して看護過程で実践できる	30			○				◎						
国際看護活動論	国際的な視点で看護学を捉え、看護援助の必要性を理解し、本学における仏教精神を基軸とした、国際間にある宗教、価値、生活、経済状況の差異を理解し、国内外における異文化の人々との共生を図り、必要な看護支援、人々の生活支援に関する視点とその実際を学ぶ	1. 国際看護の概念が理解できる	30		◎										○	
		2. 国際間の文化的差異に基づいた看護支援が理解できる	40			○									◎	
		3. 国際的課題に対応し仏教精神にもとづいた看護実践が理解できる	30										○		◎	
災害看護論	災害支援活動を行うために必要な災害の定義、災害サイクルにおける各期の特徴、人や社会への影響、災害時の特徴的な健康課題や看護ニーズを学び、災害の及ぼすマイナスの影響を少なくする活動、看護職の役割を深める	1. 災害看護の概念が理解できる	30		○	◎										
		2. 災害時の看護ニーズが理解できる	40		○	◎										
		3. 災害の予防対策が理解できる	30		○										◎	
抗加齢医学と健康	健康科学部では、医学、栄養学、看護学を通して、ライフステージにおける多様な局面で、人々が自立し、かつ積極的に充実した社会生活を送るための健康な生活について理解することが必要である。そこで、日々、発展する抗加齢医学と医療の実際を知り、栄養学、看護学における健康との関連について学ぶ	1. 加齢による医学的モデルの概念を理解する	30	○		◎										
		2. 加齢が人々の生活に及ぼす影響を看護的視点が理解でき支援できる	40		○	◎										
		3. 健康科学部として看護学や栄養学を通して健康の支援が理解できる	30			○					◎					

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分	ディプロマポリシーの項目番号												
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで												
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩			
癒しと健康	健康教育の一環として、心身の健康な生活を送るための「癒し」と「リラクゼーション」について、アロマセラピー、リハビリメイク、ヨガの理論と方法を学び、健康に関する多様な支援の在り方を検討していく	1. アロマセラピーの方法論と看護上の実際が理解できる	35		◎	○										
		2. リハビリメイクの方法論と看護上の実際が理解できる	35		◎	○										
		3. ヨガの方法論と看護上の実際が理解できる	30		◎	○										
対象別公衆衛生看護活動論	母子、成人、高齢者など発達段階別対象に応じた保健活動の目的、制度とシステム、健康課題、展開方法および難病、障がい、精神保健、感染症、歯科など健康課題に対応した保健活動、災害時の保健活動について学ぶ	1. 地域における母子保健・成人保健・高齢者保健の理念と施策、保健活動の実際、保健指導の要点を理解している	40	○		◎										
		2. 地域における難病保健・障害者保健・障害児保健・精神保健の理念と施策、保健活動の実際、保健指導の要点を理解している	40	○		◎										
		3. 地域における感染症保健・歯科保健の理念と災害保健活動の目的と施策、保健活動の実際、保健指導の要点を理解している	20	○		◎										
公衆衛生看護技術論Ⅰ	公衆衛生看護活動の対象である人々が共通して持つ健康課題、解決のための支援技術やヘルスケアシステムについて学ぶ。具体的には、個人や家族、地域に対する基礎的な支援技術、国や行政組織の政策形成過程、公衆衛生看護管理について学ぶ	1. 公衆衛生看護の対象の特性と問題、問題解決のための支援技術、対象である個人・家族・集団に対するアセスメントと支援方法が説明、記述できる	40						◎	○						
		2. 公衆衛生看護活動の基本的支援技術である家庭訪問、健康相談、健康教育の技術を理解している	50						◎		○					
		3. 行政における政策形成過程、公衆衛生看護管理について理解している	10					○				◎				
公衆衛生看護技術論Ⅱ	地域の健康問題を分析し、健康ニーズを明らかにし、解決の方法を立案する地域支援活動について、コミュニティアセスメントの方法と公衆衛生看護活動計画、地域組織活動および地域全体のヘルスケアシステムを構築する技法について学ぶ	1. 地域の健康情報や健康問題の把握と分析、保健事業の計画立案、実施、評価方法が展開できる	60						◎	○						
		2. 地域ケアの向上を目指す地域ケアシステムの技法を理解している	20						○	◎						
		3. コミュニティの健康増進における公衆衛生活動としての戦略を理解している	20						◎					○		
公衆衛生看護学実習Ⅰ	学校や産業、健康増進センターで行われている保健活動の体験を通して、学校や産業、健康増進センターにおける保健活動の特性を理解する。	1. 学校保健活動の特性を理解する	35			◎			○							
		2. 産業保健活動の特性を理解する。	30			◎			○							
		3. 健康増進センターにおける保健活動の特性を理解する。	35			◎			○							
公衆衛生看護学実習Ⅱ	保健所や市町村で行われている地域保健活動の体験を通して、地域診断の過程や個人・家族・集団・組織のセルフケアを高める基礎的な援助方法を習得し、公衆衛生看護の特性や地域の看護活動との連携等を理解する。	1. 地域診断の過程を習得する。	20						◎	○						
		2. 個人・家族・集団・組織のセルフケア能力を高める基礎的な援助方法を習得する。	40				○		◎							
		3. 地域の看護活動（在宅看護、学校・産業保健他）との連携を理解する。	40								◎		○			

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分	ディプロマポリシーの項目番号											
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで											
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
公衆衛生看護学実習Ⅲ	保健所や市町村で行われている家庭訪問及び健康教育等を通して、個人とその家族や集団のセルフケア能力を高める援助方法を習得し、個人の課題を集団や地域の課題として理解する。	1. 個人とその家族のニーズに応じた家庭訪問指導を計画・実施・評価できる。	40						◎	○					
		2. 対象のニーズに応じた健康教育を企画・実施・評価できる。	40				○		◎						
		3. 個人の課題を集団や地域の課題として考察できる。	20								◎		○		
教職論	教職という仕事の理解と技能を深める	1. 教職という仕事を多面的に理解している。	35			○									
		2. 専門職的な能力を築きつつ、子どもの学びをデザインできる実践的 技能の基礎をそなえる。	35			○							○		
		3. 教職の専門性に裏打ちされて、総合的に展開できる実践的指導力の 基礎をそなえる。	30			○	○								
教育原理	教育の理論と実践の関係を把握する	1. 教育の社会的意義と目的を理解する	35	○		○									
		2. 教育の思想と歴史を理解する	35											○	
		3. 初等教育制度・中等教育制度・高等教育制度の社会的機能を理解 する	30										○	○	
教育心理学	幼児、児童及び生徒の心身の発達 及び学習の過程(障害のある幼児、 児童及び生徒の心身の発達及び学 習の過程を含む。)を理解する	1. 教育心理学で得られた様々な知見を概観し、教育に係る心理学的知 識を習得して相互の理解を深める	40	◎		○									
		2. その知見を活かして、授業計画・授業内容・授業方法について具体的 な提案ができるようになる。	30								○		○		
		3. 教育現場のさまざまな問題(障害のある生徒の心身の発達及び学習 の過程を含む。)を取り上げ、その背後にある課題を心理学的に考察す ることで実践力を養う	30								○		○		

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分	ディプロマポリシーの項目番号											
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで											
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
教育行政学	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	1. 教育制度・教育行政の役割と機能について要点を理解する。	35			○									
		2. 教育制度・教育行政の基本用語・法令について理解する。	35			○									○
		3. 教育制度改革の論点や課題について理解し、簡潔な説明ができる。	30		○									○	
人権教育	人権に関する基本的な考え方と、さまざまな人権問題について学び、主体的に実践できる。	1. さまざまな人権問題や課題に関する知識を身につける。	35	◎								◎			
		2. 人権に関する基本的な心得と考え方を理解する。	35									◎			
		3. 人権を自らの問題として認識し、考え、実践できるようになる。	30									○	◎		
教育課程論	教育課程の基準の意義及び編成方法の理解を深める。	1. 教育課程論・カリキュラム論および学力論について、主要な論点や基礎的知識を理解する。	35			○				○					
		2. 授業づくりを行う上で必要な目標・内容・方法・評価について基本となる仕組みを知り、教育課程をもとに授業がどのように成立するかを理解する。	35			○				○					
		3. これからの時代に求められる教育課程について問い直す視点を持つ。	30										○	○	
道徳教育の理論と指導法	道徳の基本問題の修得と学校教育における道徳指導の展開	1. 日本と西欧における道徳教育の歴史を修得する	35			○						○			
		2. 学校教育における道徳教育の目標と内容と方法を統一的に理解できる	35							○		○			
		3. 実践的に解決したい問題にも、解決方法を模索し創意する志向性を持ち続ける	30							○			○		
特別活動指導論	人間形成をめざす特別活動の指導法について習熟する	1. 特別活動の意義と今日求められている課題を認識し、教育方法を学ぶ	30			○							○		
		2. 特別活動の指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を行うことができる	30			○				○					
		3. 模擬授業を行う経験を通して、授業実践のための準備や、授業の場での教育方法を具体的かつ実践的に学ぶ	40							○			○		
教育方法論	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法を理解する	1. 教育方法に関する理論に基づき、授業研究を行う	30							○					
		2. 教育方法に関する理論に基づき、教材研究を行う	30							○			○		
		3. 学習教材を計画・開発・評価するプロジェクトに取り組む	40							○			○		
生徒指導論	生徒指導・進路指導の理論及び方法について理解習得する。	1. 個性を持つ生徒一人ひとりを理解できるための基礎を学ぶ	40	○			○								
		2. 教師の専門職性をふまえながら生徒に対する理解及び援助の方法について考える	40			○	○								
		3. 進路指導の理論と方法を知り、キャリア教育の実践について提案できるようになる	20			○	○								

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分	ディプロマポリシーの項目番号												
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで												
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩			
教育相談	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法を理解する	1. 教育相談における技法を知る	30			○	○									
		2. 教育相談への理解を深める	30			○	○									
		3. 学校で教員となった場合どのように生徒・保護者と関わってゆくかについて各自が積極的に考えてゆけるようになる	40				○						○			
養護概説	養護教諭に必要な学校保健安全活動、児童・生徒などを取り巻く社会環境や健康課題への支援と健康増進について学ぶ	1. 養護教諭の職務について理解している	40			○				◎						
		2. 学校保健安全活動である健康増進を図る能力を習得している	30		○	◎										
		3. 児童・生徒などを取り巻く社会環境や健康実態・健康課題とその支援を理解している	40		◎		○									
事前・事後指導	教育実習の事前指導と事後指導	1. 教育実習の意義と心構えについて基本的に理解する	30			○										
		2. 教科指導の方法・技術について基礎的に習得する	30			○										
		3. 生徒指導・特別活動・道徳指導について実践的に修得する	40				○			○						
養護実習	実習は小・中学校いずれかの教育現場で行われ、自らの適性を判断しながら養護教諭としての実践力を養い、高める。訪問指導では、学生自身が実習の成果と課題を確認できるように指導が行われる	1. 養護教諭としての適性が判断できる	20				○							◎		
		2. 実習には真摯な態度で誠実に取り組むことができる	60												◎	
		3. 学生は自らの課題の確認ができる	20												◎	
教職実践演習(養護教諭)	教員として必要な専門的実践力が、目標等に照らして、有機的に統合され形成されているかどうかを、最終的に確認する。履修した科目と活動の中で何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能等を補い養護教諭としての専門性に加えて、教師として実践力ある資質能力を習得する	1. 教員としての専門的実践能力が習得できている	40							◎				○		
		2. 演習の目標に対して十分達成できている	30												◎	
		3. 事例研究が適切に展開できる	30							○	◎					